ASSOCIAÇÃO CENTRAL NIPO-BRASILEIRA NOTÍCIAS E INFORMAÇÕES

ブラジル特報

BRASIL

No.1669
2022年7月号

特集 独立200周年と在日ブラジル人社会

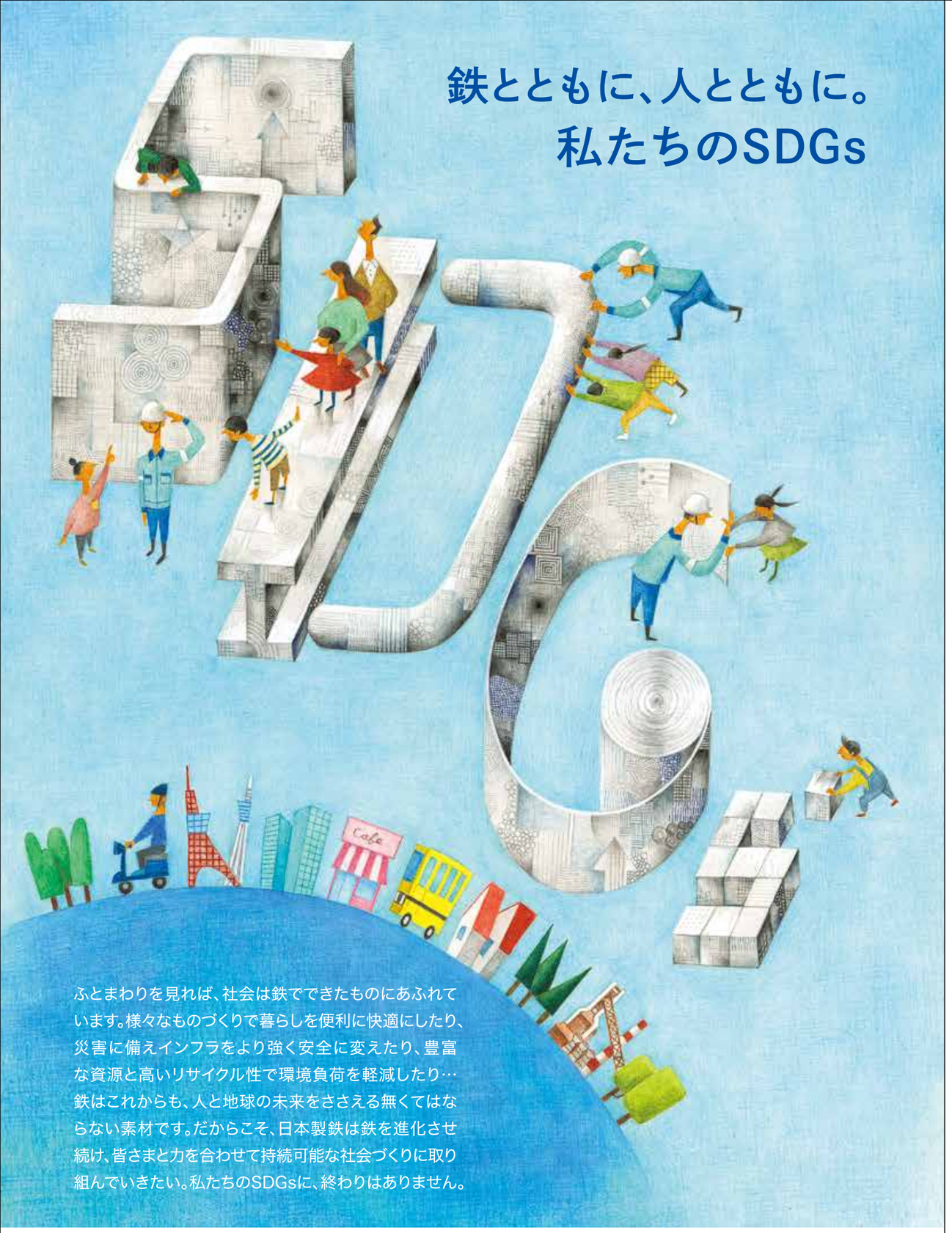
- 在日ブラジル人によるメディアの栄光と挫折
- 愛知県立大学と在日ブラジル人コミュニティ
- コロナ禍と在日ブラジル人社会の現状

あの町この町
プルデントーポリス Prudentópolis

0円

新規会員募集中！
詳しくは P21 をご覧ください。

一般社団法人 日本ブラジル中央協会
URL http://nipo-brasil.org/ E-mail info@nipo-brasil.org
〒105-0004 東京都港区新橋 1-18-2 明宏ビル本館５階 TEL:03-3504-3866 FAX:03-3597-8008 発行人：大前孝雄／編集人：岸和田仁



ふとまわりを見れば、社会は鉄でできたものにあふれています。様々なものづくりで暮らしを便利に快適にしたり、災害に備えインフラをより強く安全に変えたり、豊富な資源と高いリサイクル性で環境負荷を軽減したり…鉄はこれからも、人と地球の未来をささえる無くてはならない素材です。だからこそ、日本製鉄は鉄を進化させ続け、皆さまと力を合わせて持続可能な社会づくりに取り組んでいきたい。私たちのSDGsに、終わりはありません。

NIPPON STEEL

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

目 次

あの町この町
プルデントーポリス［岸和田仁］……3

ブラジル・ナウ
ロシアのウクライナ侵攻とブラジルのウクライナ移民史
［編集部］……5

【特集】独立 200 周年と在日ブラジル人社会
在日ブラジル人によるメディアの栄光と挫折
［アンジェロ・イシ］……6

【特集】独立 200 周年と在日ブラジル人社会
愛知県立大学と在日ブラジル人コミュニティ
［スエナガ・エウニセ］……8

【特集】独立 200 周年と在日ブラジル人社会
コロナ禍と在日ブラジル人社会の現状
［林 隆春］……10

ブラジル現地報告
Make Your Life GOSTOSO ②
［REI CAPOEIRAP］……12

連載・日系企業シリーズ
KIKKOMAN のブラジル事業［西田浩一郎］……13

連載・ビジネス法務の肝
暗号資産に関する法規制［柏 健吾］……14

連載・勘どころ～税務&ホットトピック～
ブラジルにおけるサイバーセキュリティ環境、規制及び課題
［エドソン・ホンダ／三上智大／天野義仁］……15

エッセイ
ブラジル映画 心に残るワンシーン
『ズズ・エンジェル』(2006)
［宮下ケレコンえりか］……16

ブラジルに暮らして
ブラジルで得たアイデンティティの確立
［コッペデひろみ］……17

ジャーナリストの旅路
「ジャポネス・ガランチード」初めて知った本当の意味
［岡田 玄］……17

連載・文化評論
追悼：映画監督ブレノ・シルヴェイラ（1964-2022）
～その早すぎる死を惜しむ
［岸和田仁］……18

キャンパス・コラム
アフロ・ブラジル宗教の魅力［小手川佑介］……19

新刊書紹介……20

連載・ブラジルあれこれ
チラデンテスー「顔のない」英雄……20

協会からのお知らせ……22

写真＝永武ひかる
「表紙のひとこと」

「植民地時代設立のリオの植物園。一般公開はブラジル独立の年からで今年 200 年。国内外の多種の植物があり、広大な敷地はキリスト像麓の自然林へと続く世界遺産群の一つ。並木道のヤシの名は“帝王椰子”。その姿は帝政の歴史を物語るかのよう」

永武ひかる：ブラジル撮影約 30 年、著作に写真絵本「世界のともだち 3 ブラジル」（偕成社）等。
www.hikarunphoto.com

あの町、この町

プルデントーポリス Prudentópolis

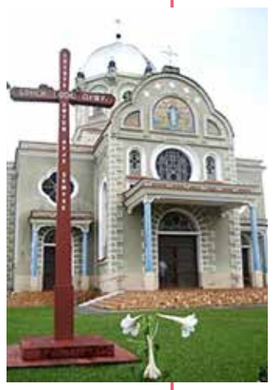
ブラジル南部三州のなかでも特にパラナ州は東欧はじめ様々な国から移民を受け入れて来た歴史を有する。イタリア、ドイツ、日本はもちろんだが、ポーランド、オランダ、レバノン、アルメニア、ウクライナなどから多くの移民が流入してきた。最近ではチャベス・マドゥーロ専制政権下で破綻国家となってしまったベネズエラからの高学歴避難民がパラナ州に多く住み付き、短期移民ではなく永住移民として定着してきていることでも知られる。

プルデントーポリス市の入口

こうした歴史的経緯から、パラナ州には、様々な国からやってきた移民の集団入植地が発展して中規模都市になっている例が少なくない。

州都クリチーバから西の方向へ 200km ほど内陸方面に入ったところに位置するプルデントーポリス市の場合は、街の歴史とウクライナ移民の歴史とがきわめて密接な関係にあることから、ロシアによるウクライナ侵攻がきっかけとなって、今年 3 月以降ブラジル内外から注目を集めている。

19 世紀末から 1920 年代にかけて、累計で数万人ものウクライナ移民の多くが入植したのは、パラナ州の南部から中央部にかけてであったが、一番密度の高いウクライナ集団入植地を形成したのが、現在のプルデントーポリス市であった。


▲ウクライナ正教の教会

現人口は 5 万人ほどの中規模都市であるが、なんと、現住民の 8 割がウクライナ系（3 世や 4 世が主体）で、街の道路標識もすべてポルトガル語とウクライナ語で併記されている。地元の公立学校ではウクライナ語教育も必須科目となっているため、住民のほとんどがウクライナ語でも読み書きができる。まさに「ブラジルのなかの小ウクライナ」だ。

この市の名前は、創設当時の大統領（プルデンテ・デ・モラエス）にちなんで付けられたが、温暖な気候に恵まれた土地で、農業（大豆、小麦、大麦、トウモロコシ、豆類）関連の農産加工業やマテ茶製造が盛んで、自然環境を取り込んだエコロジカルな観光業も今後の発展が期待されている。プーチンによるウクライナ侵略が生み出した副産物効果でプルデントーポリス市の知名度が急上昇したワケだが、住民の多くがウクライナへの連帯を表明し、和平の到来を切望していることは言うまでもない。

岸和田仁（『ブラジル特報』編集人）

ロシアのウクライナ侵攻と ブラジルのウクライナ移民史

ボルソナーロ大統領によるロシア訪問

米国政府より事前に強く反対されていたにもかかわらず、ロシア訪問を強行したボルソナーロ大統領は２月 16 日、プーチン大統領と面談した。この訪露案件は昨年 10 月には外交日程の確定事項となっていたとはいえ、ウクライナを巡って欧米とロシアとの緊張関係が急速に悪化していた時期だけに、ブラジル政府内にも慎重論があったが、そんな内情も無視して強行されたのであった。しかも同行したのが政府顧問でも何でもない次男カルロス（リオ市会議員）で、この公私混同型ロシア訪問の主たる成果は、ブラジル農業に必要不可欠な化学肥料（窒素、リン酸、カリウム）の最大の供給国であるロシアへの連帯表明であった。

プーチン、ボルソナーロ両大統領が固く握手を交わした日から８日後の２月 24 日、ロシアはウクライナ侵攻（宣戦布告なしの侵略戦争）を開始した。

ロシアのウクライナ侵攻とブラジル

このウクライナ侵攻を受け、国連総会は３月2日、緊急特別会合において、ロシア軍事行動の即時停止を求める決議案を圧倒的多数（141ヵ国が賛成）で採決した。さらに、国連総会は、3月24日、ウクライナにおける人道危機を「ロシアによる敵対行為の結果」として遺憾の意を表明し、民間人保護等を求める人道決議案を140ヶ国の賛成多数で採決した。３月２日は賛成票を投じたブラジルは、３月24日の決議では棄権している。欧米によるロシア制裁には反対しているブラジル政府は「中立」の立場に立っているからだ。

この連邦政府の「ロシア寄りの中立」に対し、はっきりと「ウクライナとの連帯」を表明したのがパラナ州議会であった。

国連総会におけるロシア停戦決議の５日後の3月7日、パラナ州議会が、特別会議を招集し、「ウクライナへの、全面的かつ無制限の連帯」を全会一致で決議した。

このウクライナへの無条件連帯動議を、ブラジルの国会（連邦下院）ではなく、パラナ州の州議会が決議したのは、なぜだろう。それはウクライナ系住民が一番集中しているのがパラナ州であるからだ。在ブラジルのウクライナ系住民の数は、ブラジル全体で推定 60 万人といわれているが、その８割以上がパラナ州在住である。

ブラジルへのウクライナ移民の歴史

ブラジルが多くの移民を受け入れて来た多人種多民族国家であることは、改めて確認するまでもないことだが、ウクライナ移民の受け入れ国としても中南米で最大なのがブラジルである。この歴史的事実が、ロシアのウクライナ侵攻をきっかけとして改めて注目され、ブラジルの主要新聞や週刊誌ばかりか CNN や BBC も大きく報道するようになっている。

関連資料によれば、1891 年から 1920 年頃までの間、当時オーストリア・ハンガリー帝国の一地域であったウクライナからブラジルへ移民として渡ってきた人たちの数はおよそ５万人とみられている（彼らのパスポートはオーストリア帝国のものなので、現在のウクライナに属するガリツィア地方からの移民の数を推定すると、およそ５万人という数字になっている）。

ウイルソン・マルティンスのパラナ社会論

名著『ブラジル的インテリジェンスの歴史』（全７巻）などで知られる評論家・大学教授ウイルソン・マルティンス（1921-2010）がブラジル社会論の一試論として 1955 年に刊行したのが、『Um Brasil Diferente（ある異形のブラジル）』である。これはドイツ、イタリア、ポーランド、ウクライナ、日本などからの移民によって社会が形成されたパラナ州の歴史社会学的ケース・スタディーであり、ジルベルト・フレイレらが主張した、先住インディオ、イベリア（ポルトガル）、アフリカという三つの文化の融合がブラジル社会の根幹を確立した、との” 定説” への異議申し立てであった。

今回のウクライナ侵略が、ブラジル・パラナへのウクライナ移民という歴史的事実を再確認する機会を与えてくれたこともあり、この「もう一つのブラジル」論の結語部分（拙訳）を改めて熟読したい。

「パラナとは何か。社会学的な視点からいえば、他のすべての諸文明の破片群を合わせて築き上げたオリジナル文明という新次元を、ブラジルに付加した地域である。奴隷制なし、黒人なし、ポルトガル人なし、インディオなし、であったから、人的規定からすればブラジル的ではないともいえるだろう。大仰な身振りや感情の爆発に敵対しつつ、その歴史は、謙虚かつ堅固に、その奥深いところでは全くブラジル的な歴史を築き上げた。それは、多くの対立文化に対抗しつつもナショナルな思念を植えつけることが出来た、という意味でのブラジル的な歴史だ。州民文化のルーツであるヨーロッパ本体でも出来なかった人間同士の友愛という模範を示し、それぞれ違った諸文化を調和的にまとめるという素晴らしい経験を具現化できたのであった。これが、パラナである。」

『ブラジル特報』編集部

在日ブラジル人による メディアの栄光と挫折

アンジェロ・イシ
（武蔵大社会学部教授）

1990年に日本に留学して以来、在日ブラジル人の歩みを様々な角度から研究してきたが、中でもメディアは最も重視してきたトピックである。この度は「在日ブラジル人の32周年に対する思い」をテーマとした原稿の依頼を受けたが、編集部からは切り口は自由だというお言葉をいただいたので、本稿では在日ブラジル系メディアの約32年の歩みを振り返り、近年の変化に着目してみたい。

なぜ、メディアなのか。私は研究者（学問分野で言えば、国際社会学者で移民研究者）である以前に「ジャーナリスト」という職業的アイデンティティを強く持ち続けており、とりわけ印刷媒体、「紙メディア」への思い入れは強い。サンパウロでは大学生時代に『パウリスタ新聞』のポルトガル語欄編集部で記者として働いた（同紙は後に合併で『ニッケイ新聞』となり、経営難で昨年、休刊に。周知のとおり、『ブラジル日報』として生まれ変わった）。ちなみにサンパウロ大学での私の卒論のテーマも「日系移民新聞の過去・現在・将来」であった。日本では1996年から1998年までの3年間、東京で発行されていたポルトガル語の週刊新聞Jornal Tudo Bemの編集長を務めた。その任期中に、日本とブラジルで同時発行されたポルトガル語月刊誌Made in Japanの初代編集長も務めた。さらに、現在も発行されている隔週の無料雑誌（フリーペーパー）Alternativa（『アウテルナティーバ』）で、2004年よりかれこれ18年間、Ponto de vistaというコラムを連載し続けている。

▲無料雑誌 Alternativa
（『アウテルナティーバ』）

以上のように、この32年間、私は移民が作るメディア、すなわちエスニックメディアを単に「研究」するのではなく、「作り手・書き手」としても深く関わるという「二刀流」を貫いてきた。ここではその経験から得られた知見と問題意識を共有したい。

エスニックメディアの栄光と挫折

ブラジル人によるビジネスとしてのメディアは、90年代に「バブル期」という表現がふさわしいほど、目覚ましい発展を遂げた。まず、1991年に神奈川県で『インターナショナル・プレス』（以下、『IP』）、同年に静岡県で『フォーリャ・ムンジアル』、1992年に東京で『ジャーナル・トゥード・ベン』（以下、『TB』）、そして1995年に静岡県でNova Visãoが創刊された。

90年代後半の最も画期的な出来事は、『IP』を発行するIPC社による衛星テレビ（スカイパーフェクTVのブラジルチャンネル）の開局であった。これは後に、在日ブラジル人の間でもっとも利用されるメディアの一つに発展した。

90年代前半が在日ブラジル系メディアの創成期、そして90年代後半がその発展期であったとすれば、2000年代は新たな種類の媒体の参入によるメディア界の再編が顕著であった。2008年以降は経済危機による「市場からの撤退」と「事業の規模縮小」によってさらなる再編が迫られたため、「成熟期」や「安定期」と定義できる期間は皆無に等しく、2000年代全体を「再編期」と称するのが適切だと思われる。

2000年代の前半は「ポルトガル語新聞からインターネットを活用した多言語メディアの時代へ」の展開が顕著であり、とりわけ「活字メディアの多様化」「放送メディアの異変」「ウェブメディアの台頭」などが傾向として挙げられる。

「活字メディアの多様化」に関しては、『アウテルナティーバ』を筆頭に、無料配布の雑誌が続々創刊され、それまで君臨していた有料の週刊新聞の地位を根底から揺るがすに至った。有料各紙がそれまで公表していた「公称」の発行部数が著しく実態とかけ離れているという事実が、無料誌の登場によって浮き彫りになった。同じ求人広告を有料紙と無料誌にそれぞれ掲載したある人材派遣会社の関係者は、その効果があまりにも異なったことに驚き、以降は無料誌にのみ掲載するようになったと打ち明けた。私の分析では、勢力図の塗り替えを決定づけたのは、『アウテルナティーバ』が日本ABC協会（大手出版社や日刊紙が加盟する、発行部数を証明する監査機構）に加盟したことだ。

「放送メディアの異変」に関しては、まず、IPCテレビに追随してブラジルで2番目の視聴率と資金力を有するRecord放送が、国際放送を拡大する路線を打ち出して日本にも進出したことが挙げられる。IPCと同じスカイパーフェクTVをプラットホームとして利用する形で、かつIPCより低い価格設定を売りにして、在日ブラジル人の間での普及を図った。

「ウェブメディアの台頭」に関しては、パソコンの画面で簡単に聴取できる24時間放送のウェブラジオ、各地のコミュニティ・イベントのほぼ無編集の映像が無料で視聴できるウェブサイト、ブラジルやコミュニティのニュースが閲覧できる無数のウェブサイトが登場した。

2008年以降の経済危機は有料紙や多くの無料誌の休刊をもたらした。危機を生き抜いたのは、『アウテルナティーバ』を筆頭に、少数の無料誌、テレビ局2局、そして多数のウェブメディアである。主要な活字媒体として知られた週刊新聞の『TB』と『IP』が2009年と2010年にそれぞれ廃刊となったのは、あまりにも残念な話である。両紙の消滅、すなわち新聞の不在が在日ブラジル人のメディア界全般にいかなる影響を及ぼしたのか、そして在日ブラジル人の言論界で何が失われたかという課題に注意する必要がある。

『IP』は同社サイトにおいて休刊の理由を「デジタル時代にジャンプする」と説明した。小見出しで「この決定はより一層、在日ブラジル人コミュニティの情報へのアクセスを活性化し、民主化する」と記した。周知のとおり、その後は有言実行には程遠い展開となった。

ブラジル系新聞の全滅をデジタル時代の到来による必然的な帰結として安易に結論づけてはならないというのが私の持論である。経営陣のジャーナリズムに対するコミットメントの希薄さを見過ごすことはできまい。さらには、これらの媒体がいわゆる移民の「第二世代」、日本で生まれ育った人々を引きつけることができなかった（あるいはそれを敢えて目指さなかった）ことが寿命を縮める要因として働いたと考えられる。

デジタルメディアの功罪

在日ブラジル人向けの新聞史が僅か20年足らずで2010年に幕を閉じたことは、2011年に東日本大震災が発生したことを考慮すれば、不幸なタイミングであった。多くの在日ブラジル人が利用したネット空間では、不正確な情報が錯綜し、混乱を招いた。

2010年代の特徴はいうまでもなく、SNSやデジタルメディアの普及である。とりわけユーチューバーの活躍は目覚ましく、新たなメディア・セレブリティ（俗に言う「インフルエンサー」）が登場した。最も有名な事例はJapão nosso de cada diaというチャンネルのPrit & Lohgann夫妻である。このチャンネルは実に253万人の登録者数を確保している。この数字から容易に想像できるとおり、そのファン層は決して在日ブラジル人あるいはブラジル在住の日系人に限られず、全世界におけるブラジル人である。そこで配信される動画は私からみれば悪い意味で「バラエティ系」のコンテンツばかりである。

ユーチューブと並んでブラジル人の間で人気を博しているメディアはポッドキャスト（スマートフォンやパソコンで音声や動画が視聴できるサービス）でのコンテンツ配信である。

例えばW.Dougという在日ブラジル人の映像制作者は9K Brasil（9Kはブラジル人の間で馴染みのある工場労働者用語の「休憩＝kyukei」にちなんだ語呂合わせ）という音声のみのポッドキャストを配信している。在日ブラジル人のパイオニアやリーダー（例えば多くの自助組織の設立に関わったヒデキチ・ハシモト）へのインタビューや、日本や日系社会を理解するための解説（例えば臣道連盟の解説！）が無料で聴取可能である。

雑誌とウェブサイトで知られる前述の『アウテルナティーバ』も2022年5月、ポッドキャスト配信を開始した。Alternativa no arというインタビュー番組で、ブラジル日系社会で最も有名な歌手と言っても過言ではないジョー・ヒラタがホスト役で、毎回、様々な業界の人をインタビューするというコンセプトの番組である。

しかし、新しいメディアの大多数は意識啓発や有益な情報よりも、面白い話題や物珍しい商品紹介を優先するあまり、新型コロナウィルス感染拡大に直面したコミュニティに満足な情報提供を行なっているとは言い難い。コロナ危機ではまたも多くの在日ブラジル人が「言葉の壁」に直面することになった。

論壇の不在と失われる歴史

私は在日ブラジル人メディアにおける「論壇の不在」に対して警鐘を鳴らしてきたが，新聞不在でネット全盛の今、コミュニティの「言論空間」を構築する能力が致命的に低下していることを危惧せずにはいられない。本稿で紹介してきたメディアの栄光と挫折は、ブラジル系の飲食業などエスニックビジネス業界全般の景気に明らかに左右されている。どの商業メディアもその主な収入源が広告料であることを考えれば、これは何も不思議なことではない。ただ、裏を返せば、このメディアの低迷ぶりは、それだけ在日ブラジル人コミュニティを支えるインフラ全般が弱体化していることを表しているのかもしれない。

最後に、メディアの保存とアーカイブ化という難題について注目を促したい。最近リニューアルされた横浜のJICA移住資料館での常設展示において、前述したMade in Japan誌が「展示物」に化したこと自体、「印刷媒体がついに過去のもの、歴史の一部」になってしまったことを思い知らせるようで、複雑な心境だ。また、恐ろしいことに、廃刊となった4つの新聞はいまだに保存・アーカイブ化されないままだ（IPCテレビについても同様）。つまり、32年の在日ブラジル人の歴史の重要な創成期の記録と記憶が失われているのだが、このロスを悔やむ声がなぜかコミュニティ内部から（そういえば、外部からも？）上がって来ない。私が編集長を務めた『TB』に限っては、粗大ゴミとして捨てられる寸前に引き取って、自分の研究室に山積み状態で眠っている。これをどう活用するか、それは私の宿題でもあり、コミュニティ全体や日本社会の宿題でもある。

▶雑誌 Made in Japan

愛知県立大学と在日ブラジル人コミュニティ

スエナガ・エウニセ
（愛知県立大学教養教育センター准教授
ポルトガル語ネイティヴ教員）

現在、日本における在日外国人の数は中国がもっとも多く、ベトナム、韓国、フィリピン、ブラジルと続く（表１）。だが外国人の数が東京に次いでもっとも多い愛知県では、外国人の中でもブラジル籍が最多である（表２～３）。

その愛知県に所在する愛知県立大学（以下愛県大）は、多文化共生社会に貢献できる人材の育成を目標の１つに掲げ、ポルトガル語教育や在名古屋ブラジル総領事館（以下ブラジル総領事館）との関係強化に力を入れている。愛県大では2008年から外国語としてのポルトガル語の授業が２人の専任教員によって行われているが、2021年4月には、筆者が初の専任のポルトガル語ネイティヴ教員として採用された。そして2022年5月からは、ブラジル外務省のポルトガル語教員派遣制度の枠で採用されたワジソン･メロ講師が２年間の期間限定ではあるが、新たに教員に加わった。2022年4月には医療、司法、教育、行政、福祉などの分野におけるコミュニティ通訳に関する知識やスキルの体系的な学びを目的とした大学院国際文化研究科コミュニティ通訳学コースが新設され、指導は英語、スペイン語や中国語のほか、ポルトガル語でも行われている。そして2023年度には外国語学部ヨーロッパ学科のスペイン語圏専攻がスペイン語・ポルトガル語圏専攻に改組され、ポルトガル語圏コースの学生の受入れが開始される。

本稿では、愛県大とブラジル総領事館との協働やブラジル籍住民の多い豊田市保見団地での学生たちの取組みを紹介したい。

表１：日本の外国籍住民・国籍別
（2021年６月末現在）

	国籍	人数
1	中　国	745,411
2	ベトナム	450,046
3	韓　国	416,389
4	フィリピン	277,341
5	ブラジル	206,365
	その他	728,013
	総　数	2,823,565

表２：日本の外国籍住民・都道府県別
（2021年６月末現在）

	都道府県	人数
1	東　京	541,807
2	愛　知	269,685
3	大　阪	250,071
4	神奈川	230,301
5	埼　玉	198,548
	その他	1,333,153
	総　数	2,823,565

表３：愛知県の外国籍住民・国籍別
（2021年６月末現在）

	国籍	人数
1	ブラジル	59,536
2	中　国	46,454
3	ベトナム	44,422
4	フィリピン	38,965
5	韓　国	28,018
	その他	52,290
	総　数	269,685

表１～３の出典：出入国在留管理庁「在留外国人統計」のデータをもとに作成。<https://www.moj.go.jp/isa/policies/statistics/toukei_ichiran_touroku.html>（参照日：2022年６月６日）

愛県大と在名古屋ブラジル総領事館との協働関係

愛県大は2019年12月に名古屋で開催されたブラジル総領事館主催の第２回教育フェアにブースを出展して以降、同総領事館との関係を深め、2021年には長久手キャンパスでブラジル人学校の児童生徒を対象にしたサイエンス・フェアを共同で開催した。

2021年7月18日に開催されたサイエンス・フェアは、日本在住のブラジル人児童生徒の科学への関心と高等教育へのモチベーションを高めたいというネイ・ビテンクール前名古屋総領事の熱い思いを、異文化交流を重視する愛県大が受け止めて実現した。サイエンス・フェアの企画には愛知県在住のブラジル人エンジニアたちが最初から関り、児童生徒たちがボートの企画から開発、制作までを行い、そのボートを競わせた（写真１）。イベント当日は、ボート・コンペティションの他に、愛県大情報科学部の神山斉己学部長による講演、次世代ロボット研究所見学及びロボットデモンストレーション、外国語学部学生による学内ツアーが行われた（写真２）。ボート･コンペティションにはブラジル人学校５校の７チームが参加し、広報は積極的に行われなかったにも拘わらず、外部からは総領事館スタッフ、スポンサー、ボランティア、児童生徒、保護者や一般客を含め、約240名がキャンパスを訪れた。また愛県大からは全５学部の教職員や学生がボランティアとして準備や運営に関わった。参加した児童生徒だけでなくその保護者からも、大学を訪れるのは初めてだという声が多く聞かれたが、子どもたちが大学を身近に感じるようになって将来愛県大で学ぶ学生がでてくることを願うばかりである。

▲写真１　ボートを競わせるブラジル人学校の児童生徒たち（写真撮影：Alex Santos Studios）

▲写真２　ブラジル人の子どもたちや保護者にキャンパスを案内する外国語学部の学生（写真撮影：渡会環）

また2022年度は、ブラジル独立200周年記念事業の一環として７月７日に長久手キャンパスで日系ブラジル人作家オスカール・ナカザト氏を招いての講演会がブラジル総領事館との共同で開催される。ナカザト氏は小説『ニホンジン』で2012年にブラジル出版界の最高峰といわれるジャブチ賞（小説部門）を受賞し、その邦訳（武田千香訳）が刊行されるのに合わせて来日するのである。

保見団地での学生たちの活動

愛県大長久手キャンパスは、ブラジル籍住民の居住率の高い団地として有名な保見団地に距離的に近い。保見団地について、下記に「多文化多様性の輝く保見団地プロジェクト」（以下保見団地プロジェクト）の資料から抜粋要約する。

保見団地は1975年に愛知県豊田市の北西部の丘陵地に造成されたマンモス団地である。一戸建て住宅の保見緑苑自治区、UR都市再生機構の公団保見ケ丘自治区と保見ケ丘六区自治区、そして県営住宅の県営保見自治区の4つの住民組織があり、通称「保見団地」と呼ばれている。80年代後半から日系ブラジル人の入居が始まり、90年の出入国管理法改正により、一層日系ブラジル人やペルー人の入居が増加した。その結果、言葉･文化･習慣の違いから、トラブルや摩擦が続き、99年には機動隊が出動するほどの対立事態が発生する。行政や国際交流協会、ボランティア、NPO団体などによって様々な取組みが行われてきているが、住民組織に関わる問題・課題は山積しており、また多種多様となってきている。2019年現在、保見団地のある保見ヶ丘地区の人口7,296名のうち、日本人は44.1%、ブラジル人は49.3%、その他にも、ペルー、ベトナム、中国などの方々が暮らしている。

（出典：『多文化多様性が輝く保見団地』をめざした住民アンケート調査報告書』（保見団地プロジェクト2021年５月）、保見団地プロジェクト資料<https://www.crcdf.or.jp/9_kyuminyokin/5_2019_kusanone_shien/B_homi/B_homi_2020hokoku_2021.4.7.pdf>（参照日：2022年６月８日）。なお、2020年４月に開始された保見団地プロジェクトは、県営保見自治区、NPO法人トルシーダ、中京大学、外国人との共生を考える会、愛知県県営住宅自治会連絡協議会の５団体で構成される。）

写真４　壁に絵を描くブラジル人の子どもたち（写真撮影：丸山真司）▶

愛県大に赴任する前、約20年間関東に暮らした筆者は、保見団地の名は聞いたことがあっても、昔ブラジル籍住民と日本人住民とのあいだにトラブルがあったが、今は落ち着いているという漠然としたイメージしか持っていなかった。しかし実際に保見団地を訪れてみると、粗大ごみの不法投棄や、壁の落書きが目立った（写真３）。

現在、筆者の知るところ愛県大の２つの学生グループが保見団地で活動を行っている。１つは、教育福祉学部の学生が中心となった学生自主企画研究グループで、住民同士の関係の希薄化や住宅環境の悪化などの問題に取組むために2021年から団地の子どもたちと一緒に壁画デザイン活動を行っている（担当教員は教育福祉学部の丸山真司教授と藤原智也准教授）。2021年度は子どもたちと一緒に数回ワークショップを行ったあと、落書きのあった24棟の入口の壁を掃除し、下地や背景を塗り、大きな虹や動植物を描いて12月に完成（写真４，５）。2022年度も新たなメンバーで活動の継続が予定されている。２つ目は、愛県大外国語学部の学生が、中京大学や愛知淑徳大学の学生と一緒に立ち上げた団体JUNTOS（ジュントス）の活動である。JUNTOSは外国にルーツを持つ人たちに、言語を学ぶ場や言語を通して交流する場を提供し、生活における様々な面で選択肢を広げることを目的として2021年に設立され、毎週土曜日に主に子どもたちを対象に活動を行っている。代表は中京大学４年（設立当時）の吉村迅翔、副代表は愛県大外国語学部４年（同）の河村留利と愛知淑徳大学４年（同）の木村成那である。筆者が見学に訪れた日は、ボランティアが子どもたちに勉強を教えたり、一緒に団地内のごみ拾いや公園の草むしりを行っていた（写真６）。

▲写真５　「保見団地　壁画デザイン活動」（2021年度学生自主企画研究報告書）より

▲写真３　保見団地内に不法投棄された粗大ごみ（2022年５月筆者撮影）

写真６　JUNTOSのボランティアと一緒に草むしりする子どもたち（2022年５月筆者撮影）

このように愛県大は大学と総領事館レベルだけでなく、学生と在日ブラジル人住民や子どもたちとの交流が強化されつつあるのである。このような交流から、将来大学に進学し、地域リーダーとなる子どもたちが育つことが大いに期待できるだろう。

コロナ禍と在日ブラジル人社会の現状

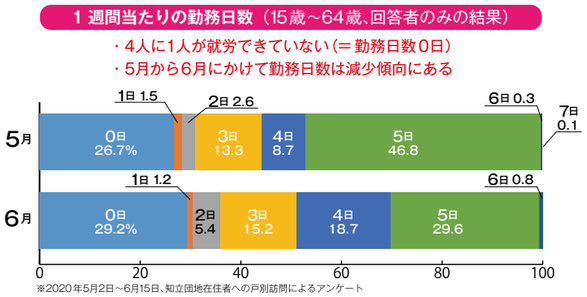
林 隆春
（一般社団法人
日本海外協会理事長）

コロナ禍による大きなインパクト

2020年3月、神奈川県小田原市で暮らしている日系人から「大変だ」と連絡が入った。箱根の山から日系人が大量に下りてきたと言う。これが新型コロナ禍で日系ブラジル人がダメージを受けた最初の情報であった。4月になると、集住団地の多くで仕事がない。住居がなくなった、食べるものがないと助けを求める声が私たちのもとに届くようになった。実態を、それも客観性のある実態を調べなければと、愛知県の知立団地で調査を行うことにした。日系コミュニティの力を借り、5月と6月の2回に分けて団地を調査、その結果を愛知県経営者協会のみなさんと一緒に分析したところ、実態が徐々に見えてきた（図1）。

私たちは解雇者が大量に出たと考えていたが、実態はそうではなく、もっと深刻な状態であった。働くというのは週に5日働き2日休む「5勤2休」が一般的だが、企業は日系人を変動費と考えており、仕事量の減少に合わせ勤務の時間が「4勤3休」になり、極端な事例は「2勤5休」まで出現していることが分かった。以前は仕事量の減少は人員の減少、すなわち解雇で対応していた。2000年のITバブル崩壊時、日系人は50～60%が解雇された。2008年のリーマンショック時は瞬間風速で90%近い人たちが解雇され、マスコミも大きく注目した。国は帰国支援費を出し、私たちは炊き出しや一時保護所の運営などさまざまな活動を行い、支援の輪が広がった。しかし、今回はそれとは全く異なり、日系人を兵糧攻めで生殺しにして退職へ、ブラジルに帰国へと誘導し、労働組合（ユニオン）も対応しにくい退職勧奨がその多くを占めることになった。群馬県のある職業安定所に行って私が説明しても、これだけ困っている人が多いのに、職安まで相談に来る人がほとんどいない。「日系人のみなさんはどうしているのでしょうね」と逆に聞かれる始末であった。企業戦略としては大成功だが、日系コミュニティは確実に痛み、劣化が始まっている。

【図1】 知立団地アンケート調査結果（一般社団法人日本海外協会調べ）



※2020年5月2日～6月15日、知立団地在住者への戸別訪問によるアンケート

雇用調整役の日系ブラジル人

雇用する側の意思はお城に例えると図2のようになる。日系人は一番外堀で、正社員や非正規労働者の雇用を守るために存在する外部労働者（派遣社員）に位置し、今回の新型コロナ禍における雇用調整に大きな役割を果たし、人事戦略上は大成功だったと言えるであろう。しかし、日系ブラジル人のみなさんはどう考えているのだろうか。

【図2】 雇用の階層化

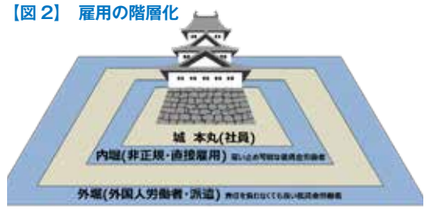
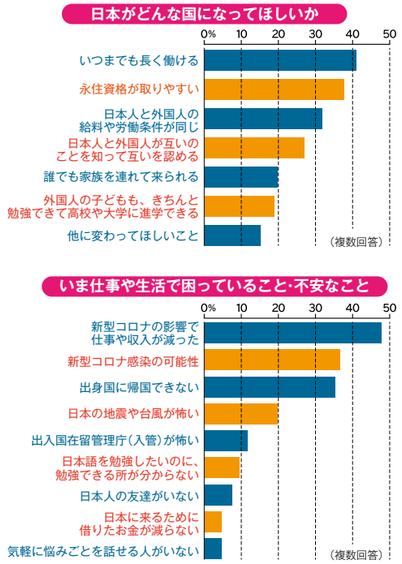
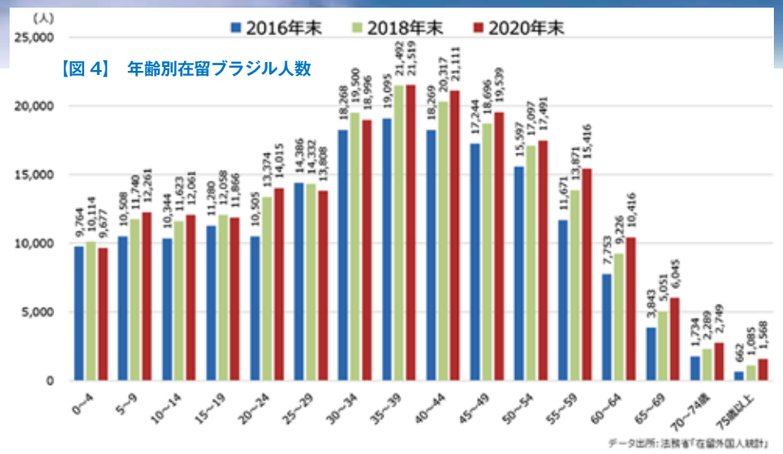


図3の質問は、信濃毎日新聞社が長野県に住む外国人を対象に行った調査だが、前2回の大量解雇で自分たちの立場の弱さを十二分に理解しているみなさんの思い、安定した生活を送りたいという切実な思いが伝わってくる。リモートワークが可能な外国人は日系人社会の中にはほとんどおらず、エッセンシャルワーカーとしての実態がよく分かる。およそ3分の2が永住資格を持つ日系ブラジル人のほとんどが厚生年金を10年余りしか掛けていないが、リーマンショック以前は大多数が厚生年金を掛けていなかった。日本は、日系人は出稼ぎ労働者で移民ではないと判断し、行政も企業の経営者もどうせブラジルの景気が回復したら帰国するだろうと考え放置していた現実がある。私たちもそう考えていた。しかし、現状は、日系人の3分の2は永住権を取得、単身で来日した人たちも結婚し、子どもが生まれ、孫まででき、生活の軸足を日本に移す人たちが増加してきた。帰化などで外国人とカウントされない人を合わせると、日系人の80%以上の人たちが好むと好まざるとにかかわらず、日本に骨をうずめることとなっているのが現状である。初期に来日したみなさんが来日後30年を経て多くが帰国を諦め、60～70代と老境を迎えた現在、日々の衰えを自覚し、異国にあって年金というセーフティネットの安心安全も感じられず、日本語の弱い情報弱者である彼らは、老後に言い知れぬ不安を感じ始めている。

【図3】 長野県内で暮らす外国人へのアンケート結果



注）回答者は計84人。2021年6月上旬から中旬にかけて実施。
出典：信濃毎日新聞社「五色のメビウス――「外国人」とともにはたらき ともにいきる」（株式会社明石書店、2022）295頁-297頁



日系ブラジル人のみなさんは日本人の私たちより5～8歳早く身体が弱り、痛んでいくことである。食生活が関係しているのであろう。今後訪れるであろう70歳年金給付時代に現在の職域（間接雇用、単純労働市場、肉体労働のみ）で働き続けることはほぼ不可能である。今後5～10年働いたところで掛け金は通算15～20年、受給額は月額10万円足らず、それも夫婦で。どちらかが病気になる等生活のアクシデントが起きるとあっという間に生活は破綻、そんな人たちが彼らの社会に散見されるようになってきた。現状を考えると、ほんの一握りの勝ち組以外、ほとんどの人たちは年金で入居出来る介護施設はない。これを「自己責任」として済ませるのはあまりに辛く酷い老後ではないだろうか。

ブラジル人に関する統計で気を付けなければならないのは、1990年6月に入管法が改正されるまでの来日者はほとんどが一世もしくは二重国籍ということである。一世が呼び寄せなければ、二世の来日は不可能であった時代があり、あの凄まじいインフレ、経済破綻に翻弄され、彼らは安定した生活と幸せを求めてやむを得ず子どもたちを呼び寄せたはずだったが、30年を経て真逆の結果になり、根無し草人生を老境で迎え、苦しんでいる。

日系ブラジル人向けの社会福祉施設

心配されるのは、日系ブラジル人のみなさんは日本人の私たちより5～8歳早く身体が弱り、痛んでいくことである。食生活が関係しているのであろう。今後訪れるであろう70歳年金給付時代に現在の職域（間接雇用、単純労働市場、肉体労働のみ）で働き続けることはほぼ不可能である。今後5～10年働いたところで掛け金は通算15～20年、受給額は月額10万円足らず、それも夫婦で。どちらかが病気になる等生活のアクシデントが起きるとあっという間に生活は破綻、そんな人たちが彼らの社会に散見されるようになってきた。現状を考えると、ほんの一握りの勝ち組以外、ほとんどの人たちは年金で入居出来る介護施設はない。これを「自己責任」として済ませるのはあまりに辛く酷い老後ではないだろうか。

現在群馬県大泉町で一時保護施設を運営しているが、それだけではなく日系人の為の社会福祉施設が必要である。私が理事長を務める社会福祉法人にケアハウス（50床）があり、さらにこの秋、古い特別養護老人ホーム1棟が空き施設になる予定で、日系人を始めとした外国人の方々の受入れが可能な有料老人ホームを運営できないかと検討中である。私も72歳になり、今後どこまで出来るか分からないが、まず呼び水として一時保護所（図5）、ケアハウス（図6）、有料老人ホーム（図7）の3棟から始め、日系人社会の安心、安全を醸成出来ないかと考えている。日系人の安心安全を支えるこの三か所の施設は、今年（2022年）夏以降具体的な実行に取り掛かるが、制度の壁、地域社会の壁、心の壁、排除の壁があり、未だほとんど進んでいない。日系人のみなさんは言葉には出さないが、心の底ではいつも思っている。「私たちは透明人間だ。日本人は私たちの来ている服は見えているが、実体としての人は見えていない。」永く苦しい老後の伴走であるが、是非みなさまのご支援をいただき、日系人社会の新たな連帯を模索、そしてブラジル人のみなさんが「私の人生もまあまあだったな」と思えるような最後を一緒に創造していきたい。

【図5】 ワールドプラザ（旧ブラジリアンプラザ）外観（群馬県大泉町）

【図6】 ケアハウス（埼玉県越谷市）

【図7】 空き予定で有料老人ホームとしての活用を検討中の施設（千葉県木更津市）

Make Your Life GOSTOSO ②

REI CAPOEIRAP
（音楽プロデューサー）

ファヴェーラ PPG

リオデジャネイロ州イタグアィーでの２週間のカポエイラ修行を終え、コパカバーナから程近い Pavão-Pavãozinho-Cantagalo、通称 PPG というファヴェーラで毎晩セッションとレコーディングを行っていた。即興で繰り広げられる若い MC たちのフリースタイル、TRAP、FUNK、HIPHOP、ジャンルを越えたトラックメイキングを行う DJ DARTH、全てが刺激的で新鮮だった。

彼らの昼の仕事だったり、『今日は電気がつかないからレコーディングは出来ないよ。』というファヴェーラ特有の事情もあったりで急遽スタジオに行けないことも多々あった。

TOS Records というレーベルを立ち上げ、クオリティーの高い音楽と映像を発信している DARTH は無償で楽曲トラックを制作し、10 代、20 代の原石の才能を育成している。それは不遇な家庭環境や貧困により彼らが非行に走ってしまうこともしっかり阻止している。音楽を通して共に過ごす仲間は家族であり、常にチャレンジする姿勢を忘れない彼らのビジョンは驚くほどに広く、ファヴェーラから世界に音楽の輪を広げようとしている。日本人の俺を快く迎え入れてくれた。一緒に何曲か作ることができた。

KondZilla との撮影

日本でプリプロの段階まで作ってきた楽曲をブラジルで仕上げ、バイレファンキ専門チャンネル KondZilla とミュージックビデオを撮影した。PPG で録音した楽曲“Bum Bum Bom Bom”の撮影は再びカポエイラ師匠のいるリオデジャネイロ州イタグアィーで、もう一曲“Make Your Life GOSTOSO”は３月にサンパウロの郊外 Cabreuva(カブリウーバ) のコンドミニアムで、それぞれ行った。リオのイタグアィーを撮影場所として選んだのはカポエイラの仲間も居て安心できる場所だからだった。振り付けはダンサーとしても活躍するカポエイラの師匠の息子 Ryan 君にお願いした。前述の PPG の TOS Records の面々も駆け付けてくれた。撮影は昼から夜にかけて１日で、８時間ほどで撮ってしまうのだが毎回、何かしら予定通りには行かず、臨機応変な現場での決断が必要となる。リオでは撮影したかったクロスフィットのジムが当日使えず、また生憎の雨でプールのシーンもキャンセル。別のシーンを現場で考えた。サンパウロのカブリウーバでは撮影を約束していたバーで当日、友人のモトホームが敷地内に入れず途方に暮れていたが、急遽、大泉町に住む友人のご両親のコンドミニアムで撮影ができることとなった。AMIZADE に感謝しかない。何とか撮影を敢行できた。

長年使用してきた REI CAPOEIRAP から アーティスト名を改名し、本名の“TOMOHIKO”として上記の楽曲二曲を７月と９月にそれぞれ KondZilla の YouTube チャンネルからリリース予定だ。

Oi! Zum Zum OIZUMI
- 世界がぎゅ～っと、おおいずみ。-

ブラジルでの活動とは別に、およそ３年の月日を経て、自主制作の群馬県大泉町の観光 PR ミュージックビデオ『Oi! Zum Zum OIZUMI - 世界がぎゅ～っと、おおいずみ。』が完成した。30 年以上前にデカセギで来日した日系人たちの歴史から始まり、今やブラジルだけではなく、ペルー、ボリビア、パラグアイ、フィリピン、ネパール、トルコ、ベトナム、カンボジア、タイ、インドネシア、、の人々が働き住む多国籍の町として知られるようになった。ここ数年、“多文化共生”というワードをよく訊くようになったが、大泉町はまさにそのお手本となるインターナショナルタウンで、少子化が進む未来の日本の姿とも云われている。

町のさまざまな店舗の皆さまをはじめ、友人たちや日伯学園の生徒の皆さま、そしてブラジル人だけではなく、多国籍の総勢 150 名以上に出演していただいた。昨年から本格的に始めたドローン映像も入れて、町と人、楽しい映像と楽曲に仕上げることができた。町のイベント“活きな世界のグルメ横丁”でお世話になっている大泉町観光協会さんにも多大なるご協力をいただいた。東京から２時間で行ける外国、群馬県大泉町で日帰りではないナイトツアーや他の事業も展開する予定だ。是非このミュージックビデオを観ていただき、実際に“Oi! Zum Zum (おーい、ずんずん)”を体験しに来てほしい。大泉町で会いましょう♪

Make Your Life GOSTOSO ♪人生を美味しく

帰国後、現在は大泉町と東京半々で暮らしている。ミュージックビデオを撮影した大泉町ではボランティア活動や、かつて 90 年代から 2000 年代、活気があったブラジリアンプラザを復旧する日系ブラジル人たちのプロジェクトにも参加している。毎回、彼らのバイタリティや姿勢から元気をもらっている。ブラジル人だけではなく、日本人の学生さんや若い世代にも呼びかけをして定期的にアイディア交換もしている。

2020年、コロナ禍のバーチャルで生まれた『Baile de Tokyo』もまだ始まったばかり。未来の東京を描いた意識革命を、リアルな活動やイベントとして展開していく。グレート・リセット、アフターコロナの時代、この島国ニッポンの日本人のマインドセットも少しずつ変わってきている。“俺のブラジリアン”のミッションも続く。ブラジルから学んだ人生を美味しくするためのジェイチーニョで、ベレーザな生き方、美味しい人生のあり方を自分自身も実践していきたい。道のりは長いが、この輪を広げていきたいと願う。

Make Your Life GOSTOSO ♪

KIKKOMANのブラジル事業

西田紘一郎
（KIKKOMAN DO BRASIL 取締役）

KIKKOMAN の世界展開

2021 年 11 月 KIKKOMAN DO BRASIL は「ブラジルの総ての食卓に KIKKOMAN しょうゆを」という目標の下に、新たなスタートを切った。南米では初めてとなる自社工場での KIKKOMAN しょうゆの製造と出荷を開始した。私たちは「KIKKOMAN しょうゆ」には世界に通用するおいしさがあると確信している。KIKKOMAN がブラジルでの市場調査を開始したのが今から 40 年ほど前。以降、委託工場での生産の試み、輸入、ソース類の現地生産、このスタートラインに立つまでには様々な試行錯誤があった。

現地嗜好にあった商品の現地生産の必要性

▲日本料理だけでなくブラジルの料理との融合を図っていく

KIKKOMAN しょうゆは今や世界 100 か国以上でご愛用頂いている調味料である。清澄な赤橙色、本醸造由来のうまみと芳醇な香りのしょうゆは料理を選ばず、どのような素材にもなじむ。単に日本古来の伝統調味料ではなく、世界に通用する万能調味料である。それはこのブラジルに来ても、変わらないと確信している。しかし、このブラジル市場には、色が黒く、甘みを添加した「ブラジル Shoyu」が広く浸透している。当社は「世界各国にある工場からバリエーション豊かな商品を輸入できる」という強みを生かし、輸入品を通じた販売を強化してきたが、輸送費や高率な間接税故に店頭価格は非常に高価なものになった。既に「Shoyu」のあるブラジル市場では競合との価格差が大きかった。その価格差故、お客様に手にとってもらえる機会創出には苦戦したものの、KIKKOMAN 商品を手にとって頂いたお客様の反応に確かな手ごたえを感じた。そこで、2018 年に現地の食文化や嗜好を強く意識し、第三者工場で輸入品より手に取りやすい価格のソース類の現地生産を開始した。従来の輸入品ではカバーしきれない、きめ細かい現地のニーズに対応し且つ「KIKKOMAN らしさ」を織り交ぜた商品をよりお手ごろな価格でご提供することで KIKKOMAN ブランドと品質を認知してもらい、KIKKOMAN しょうゆへの足掛かりを作ることを模索した。これらの商品はお客様からも好評を頂き、徐々に販路を広げていった。

AZUMA KIRIN の買収

2020 年、キッコーマン株式会社はキリンホールディングス株式会社から、ブラジルで清酒、調味料を製造販売している AZUMA KIRIN の全株式の譲渡を受けた。これに伴い、上記のブラジルで製造したソース事業を AZUMA KIRIN に統合し KIKKOMA DO BRASIL として新たなスタートを切った。AZUMA KIRIN の前身であるカンピーナス農産加工社は、ブラジルに入植された日本人移民の方々のために清酒を製造・販売することを目的に 1934 年に設立され、その後、日本の調味料の製造・販売までを手掛けるようになった。特に清酒は、ブラジルで製造された本格的な清酒として、日系のお客さまだけでなく現地のお客さまにも広く浸透し、ブラジル市場で No.1 の地位を築き上げた。1975 年にはキリンビール株式会社が資本参加し、2016 年には同社の主力清酒ブランド「東麒麟」から社名を取り「AZUMA KIRIN」と社名を変更した。同社は、広い流通網を擁しており KIKKOMAN ソースをこの流通網に乗せることで、全国規模の量販店や遠方のレストランまで広く商品をお届けできるようになった。また「一緒に食べる肴によって様々な風味の違いを楽しめる」当社の東麒麟との相性を訴求することで、相乗効果を生み出している。

南米大陸初めての自社工場の誕生と、本醸造しょうゆの出荷･販売

統合後、店頭での KIKKOMAN ソースの露出も増え、ブランドの認知度は高まっていった。しかし、私たちの目標は「ブラジルの総ての食卓に KIKKOMAN しょうゆを」である。私たちは統合直後よりカンピーナス工場での KIKKOMAN 本醸造しょうゆの現地生産の可能性を探っていた。日本より技術者を招聘し、試作、改良を重ね、2021 年 11 月本醸造しょうゆの出荷、発売をすることが出来た。KIKKOMAN しょうゆの工場としては南米大陸では初の自社工場、世界で 11 番目の製造拠点となり、私たちの目指す目標のスタートラインに立つことが出来た。

ブラジルの総ての食卓に KIKKOMAN しょうゆを

まだまだ我々の挑戦は始まったばかり。２億人の人口と世界５位の広大な国土を擁するブラジルの総ての食卓にキッコーマンしょうゆをお届けするのは簡単なことではない。しかし、KIKKOMAN は世界中で現地の食文化と融合を図りながらしょうゆを普及させてきた。ここブラジルは世界有数の食材の多様性をもっており、それらが KIKKOMAN しょうゆと融合することで「新しいおいしさ」に出会える可能性を大いに感じる。ライフスタイルや食文化に真摯に向き合い、ブラジル・南米料理との融合を図りながら、しょうゆの持つ様々な魅力や可能性をお伝えしていき、ブラジルの食卓に彩りとおいしさをお届けすべく、一つ一つ歩みを進めていきたい。

▼ブラジル最大の流通チェーン Pão de Açucar にしょうゆとソースが採用された

連載
ビジネス法務の肝

暗号資産に関する法規制

柏 健吾
（TMI 総合法律事務所
日本法弁護士
現在ブラジルで勤務）

1. 暗号資産に関する法規制はない

ブラジルにおいても、近年、ビットコインなどの仮想通貨やデジタルアートなどの NFT（Non-Fungible Token）の取引が活発化している（本稿では、これらブロックチェーン技術を利用した資産を「暗号資産」と総称する）が、ブラジルでは、暗号資産を正面から規制する法令は本稿執筆時点では存在しない。もっとも、本稿執筆時点で暗号資産に関する法案が国会で審議されているため（2022 年 4 月に 2021 年法案 4401 号が上院で承認されている）、近い将来、暗号資産の取引が行われる取引所の設置・運用や暗号資産の取引に何らかの規制が課せられる可能性は高い。本稿では、暗号資産に関する法的論点について、本稿執筆時点で存在する法令等との関係で解説する。

2. 暗号資産及び取引所の定義

上述のとおり、暗号資産を規制する法律は存在しないが、2019 年5月に連邦国税庁（Receita Federal do Brasil）が公表した Instrução Normativa RFB 1888/2019という通達で、初めて暗号資産（Criptoativo）及び取引所（Exchange de Criptoativo）の定義が規定された。同通達は、暗号資産を「独自の単位で表示される価値のデジタル表象であり、その価格を現地通貨又は外国通貨で表すことができ、暗号技術と分散登録技術を使用して電子的に取引され、投資、価値移転手段又はサービスへのアクセスの形態として使用され、法定通貨として認識されないもの」と定義し、取引所を「金融機関か否かを問わず、仲介、取引、保管など、暗号資産の取引に関するサービスを提供し、他の暗号資産を含むあらゆる支払手段を受け入れる法人」と定義している。

3. 連邦国税庁への情報提供義務

上記連邦国税庁の通達は、①ブラジルに所在する暗号資産の取引所及び②外国の取引所を介して、又は、取引所を介さずに月額 30,000 レアルを超える暗号資産の取引を行ったブラジル所在の個人及び法人に、当該取引に関する情報を連邦国税庁に提供する義務を課している。

4. キャピタルゲイン課税

暗号資産の売買等により得たキャピタルゲインは課税の対象である。もっとも、個人の場合は、連邦国税庁が 2021 年 12 月 20 日に公表した文書（Solução de Consulta Cosit nº 214, de 20 de dezembro de 2021）により、月額の取引額合計が 35,000 レアルを超えない限り課税されない。

5. 有価証券に該当する場合

証券取引委員会（Comissão de Valores Mobiliários）は、2017 年 10 月、ICO（Initial Coin Offering）に関して、ICO の経済的条件や投資家に付与される権利によっては証券取引法により規制される有価証券（Valor Mobiliário）に該当し得ること、有価証券に該当する場合には、その発行に際して証券取引法や証券取引委員会の規則に従う必要があるとのコメントを出した。かかるコメントを踏まえれば、暗号資産についても、有価証券に該当する場合には、発行に際して証券取引法等の規則に従う必要がある。なお、実際に、証券取引委員会は、2020 年 10 月に、証券取引法等の規則に従わずに ICO を発行した企業に対して罰金を科している。

6. マネーロンダリング

マネーロンダリング法（1998 年法 9613 号：Lei de Lavagem de Dinheiro）は、金融機関等に対して、マネーロンダリングのリスクを誘発する可能性のある取引について金融活動管理審議会（Conselho de Controle de Atividades Financeiras：COAF）に報告する義務を課している。そのため、同法の要件に該当する場合には、暗号資産の取引所も同義務を負う。

7.NFT の保有者が得る権利

NFT は、ビットコインなどの代替性トークンと異なり、非代替資産であるがゆえに、それを保有すること自体に価値があり、また、非常に高額な価格で取引されることもある。一方、非代替資産であっても、デジタルデータには変わりがないためその複製は容易である。そこで、NFT の保有者が、NFT を使って何らかのビジネス（NFT の展示など）を行うことができるのかや NFT の無断複製に対して何らかの権利行使をできるかは重要なテーマである。この点、NFT など暗号資産を正面から扱った法令は存在しないため、NFT 保有者の権利については民法などの一般法や NFT を購入した取引所の契約（利用規約）に従うことになる。取引所の利用規約においては、NFT の取得者は NFT の著作権を取得せず、NFT に関するデジタルデータの保有権を取得するだけであることが多い。この場合、NFT の保有者は、NFT の著作権者の承諾を得なければ NFT を複製したり配信したりすることはできず、取引所の利用規約に従い転売等ができるのみである。また、NFT の保有者は著作権者ではないことから、第三者が NFT を無断複製等しても、NFT の保有者がその第三者に対して差止請求や損害賠償請求を行うことはできない。なお、NFT が第三者の権利を侵害している場合、NFT の利用ができず NFT は無価値となる可能性があるが、一般的には取引所はこのような場合に免責されることが利用規約に規定されているため、取引所に責任追及することは難しい。

8. マイニング

ビットコイン等のマイニング事業に関する規制はない。なお、マイニング事業を誘致するための施策（マイニング機器の輸入にかかる免税など）が本稿執筆時点で議論されている。

ブラジルにおける サイバーセキュリティ環境、規制及び課題

エドソン・ホンダ
（KPMG ブラジル
アドバイザリー
パートナー）

三上智大
（KPMG ブラジル
ジャパンデスク
マネージャー）

天野義仁
（KPMG ブラジル
ジャパンデスク
責任者）

パンデミックは、私達の生活にいくつかの課題をもたらした。例えば、私達の習慣（買い物の仕方、レジャーの探し方など）から、ビジネスのやり方（例えば、パンデミック以前は多くの企業で従業員が自宅で仕事をすることが受け入れられなかった）まで、日常生活において多くの変化が生じた。私達全員が迅速に対応する必要があり、テクノロジーがこの変化に重要な役割を果たした。多くの組織は迅速に行動し、場合によっては、ビジネスを軌道に乗せるためのスピードの観点から、古いパラダイムやセキュリティさえも放棄する場面が生じた。

残念ながら、このシナリオはサイバー攻撃にとって最適な環境を提供している。ハッカーグループは、以前に増して組織化された方法で行動し、さらに高度でスケーラブルな攻撃により、攻撃の量が増加する可能性がある。ランサムウェア攻撃（身代金が支払われるまでコンピュータ・システムへのアクセスをブロックするように設計された悪意のあるソフトウェアの一種）は、この状況を示す最良の例の 1 つである。チェック・ポイント・ソフトウェア・テクノロジーズ社の調査によると、2022 年の第 1 四半期には、2021 年の同時期と比較して、ランサムウェア攻撃の影響を受けた組織が 24%増加した（ブラジルに限っては 45% 増加）。

サイバー攻撃が機密情報や組織の運営を危険にさらす可能性は、相互接続された世界に対する真の脅威であり、企業や個人に影響を与える可能性が高い。このような背景から、ブラジルにおいてもサイバーセキュリティが大きなトピックとなっており、近年、公的機関や各業界の規制機関が、サイバーセキュリティのトピックに特化した業界法規の制定に大きな動きを見せている。概要としては、データ保護や組織のビジネスに関連するシステムに対するガバナンス、脆弱性管理、インシデント対応、事業継続管理、サードパーティのセキュリティ管理クラウド環境におけるセキュリティ、サイバーセキュリティリスク管理に関する要件について制定している。以下に、近年施行された規制の例を紹介する。

- **ブラジル中央銀行（BCB）** - 2021年4月8日 決議 BCB N° 85
  BCB から営業許可を受けた決済機関が遵守すべきサイバーセキュリティ方針とデータ処理、保存及びクラウドコンピューティングサービスの契約に関する要件を規定
- **民間保険監督庁（SUSEP）** -2021年7月27日 Circular SUSEP N° 638
  保険会社、EAPCs、資本提携会社、現地再保険会社が遵守すべきサイバーセキュリティの要件について規定
- **保険局（ANS）** -2019年1月25日 決議規範 -RN N° 443
  ヘルスケアプランのオペレーターの支払能力のために、内部統制とリスク管理に重点を置いた最低限のコーポレートガバナンス慣行の採用を規定
- **ブラジル証券取引所委員会（CVM）** -2021年5月26日 決議 CVM N° 35
  規制された証券市場で証券を使用して実行される取引の仲介を規定
- **ブラジル電気通信庁（ANATEL）** -2020年12月1日 決議 N°740
  電気通信ネットワーク及びサービスのセキュリティを促進（サイバーセキュリティ、重要な電気通信インフラストラクチャの保護を含む）するための行動及び手順を確立することを目的として規定
- **国立電力庁（ANEEL）** -2021年12月14日 決議規範 ANEEL N° 964
  電力セクターのエージェントが採用すべきサイバーセキュリティポリシーを規定
- **国家司法審議会（CNJ）** -2021年6月7日 決議第 396 号
  司法のための国家サイバーセキュリティ戦略（ENSEC-PJ）を確立
- **ブラジル個人情報保護法（LGPD）** -2018年8月14日 法律 N° 13.709
  LGPD は、自由とプライバシーの基本的権利及び自然人の人格の自由な発展を保護するために、自然人又は公法もしくは私法に準拠する法人による、デジタルメディアを含む個人情報の処理について規定

KPMG の「サイバーセキュリティ主要課題 2022」のレポートでは、最高情報セキュリティ責任者（CISO）が経営幹部や取締役会のレベルで優先的に問題提起すべき 8 つの課題を選定している。

1. 戦略的なセキュリティ議論の拡大
2. 成功の決め手：不可欠な人材とスキルセット
3. クラウド時代にふさわしいセキュリティ
4. ゼロトラストの中心軸となる ID 管理
5. セキュリティ自動化の活用
6. プライバシーフロンティアの保護
7. 境界を越えたセキュリティ対策
8. サイバーレジリエンスを巡る議論の見直し

2022 年以降を見据えると、ブラジルの企業はサイバーセキュリティの観点では、ますます課題に直面することになるであろう。IoT、5G ネットワーク、AI 等によるハイパーコネクテッドワールドが生み出す課題の発生、ビジネス、コミュニケーション、エンターテインメントを推進する技術の進歩は、業界の規制当局からの圧力の高まりに加えて、新たな課題をもたらし、それとともに脅威も拡大し続けることになるであろう。これらの課題に立ち向かうために、組織はサイバーセキュリティの環境整備及び運用体制の構築に向けて前広に検討及び対応する必要がある。

ブラジル映画 心に残るワンシーン『ズズ・エンジェル』(2006)

宮下ケレコンえりか
（ブラジル映画愛好家／
元ブラジル映画祭実行委員）

字幕翻訳の世界には、「1 秒 4 文字」という大原則がある。人間は 1 秒間に 4 文字しか認識できないと言われているからだ。例えば、5 秒間のセリフがあったとすると、そのセリフは 20 文字以内の訳におさめなければならない。これは至難の技だ。情報を取捨選択して、言わんとすることを限られた文字数内で表現しなければならないのだ。

2005 年から開催していたブラジル映画祭では、上映作品のほとんどが英語字幕から日本語に訳されていた。ポルトガル語のニュアンスの反映という観点から監修のプロセスを設けていて、私もその作業に関わらせていただいた。さすが、プロの字幕翻訳の方々である。原語の意味から外れてしまっている箇所があると、的確な訳をいくつも提案してくださったものだ。字幕制作で思い入れのある作品はいくつもあるが、そのひとつに、2009 年のブラジル映画祭で上映された『ズズ・エンジェル（2006、監督：セルジオ・レゼンデ）』がある。この作品のテーマである「法と正義」を問う印象的なシーンがある。

実在の人物、ズズ・エンジェルについて説明すると、彼女はブラジルのフォルクローレをモチーフにしたファッションデザイナーで、70 年代に国際舞台で活躍した。また、軍事政権下において消息を絶った息子のスチュアートの死の真相を求めて抗議を続けた人物としても知られている。

スチュアートは、MR-8（10 月 8 日革命運動）のメンバーとして武装闘争に参加していた。匿名の電話でズズがスチュアートの逮捕を知ったのは 1971 年のこと。当時、反体制派の活動家が逮捕されると拷問にかけられ戻らない者も少なくなかった。息子の安否を訪ねて当局を回るズズだったが、陸海空軍のいずれも身柄の拘束を否定した。しかしスチュアートと共に拷問を受けたという人物から手紙が届き、その手紙には、スチュアートは逮捕され空軍の施設で拷問を受けた末に死に至り、その遺体は海に捨てられたと書かれていた。

今でこそ、スチュアートの死が記録された公式文書が見つかっているが、当時、軍政府は表向きはスチュアートを失踪者として扱っていた。問題のシーンは、国家の安全を脅かした容疑でスチュアートを召喚する軍事裁判所でのものだ。裁判は、スチュアートの“失踪”の最中（実際には拷問による死亡後）に本人不在のまま行われた。結果、証拠不十分として無罪が言い渡されるが、それは、軍によるスチュアート殺害を不問にするための形式だけの裁判であった。以下は、パトリシア・ピラール演じるズズが、憤りを顕わに傍聴席から訴えるセリフだ。

ズズ：この法廷では 人殺しが裁判官を自称している！

軍事裁判官：暴言は止めるように！
法廷侮辱罪で逮捕しますよ！

ズズ：侮辱ですって？息子を不当に逮捕しておいて？
不法に取り調べをしておいて？
拷問して殺害することが侮辱でないとでも？
我が子を葬る尊い権利を母親に禁じること それを侮辱というのよ！
法治国家の名における この茶番はなに？
これがこの国の法？
これが法と言えるの？

裁判官が、ズズの言動を“desacato（侮辱）”であると言って制したのを受けて、ズズが同じく“desacato”を使って反論するシーンだ。軍が行なった行為を列挙して、それら全てが“desacato”であると畳み掛けるように追求する様子は気迫に満ちている。

この“desacato”だが、主に二つの意味があり、この一連のセリフに重みを持たせている。まずひとつは①「尊重すべきものを蔑ろにすること、侮り軽んずること」という意味で、もうひとつは、②「法令、規律に従わないこと、法を犯すこと」という意味だ。「不当逮捕」「不法な取り調べ」「拷問と殺害」のどれも②の「違法」の意味で使われていると考えられるが、時は軍事政権下、当時施行されていた「軍政令第 5 条 (AI-5)」によって、軍に従わない人物に対してそれらの行為がまかり通っていたのであれば、それらの行為の違法性すら危うかったとも言える。であれば、「我が子を葬ることすらできない」状況において、①の「尊厳が軽んじられている」、「正義はどこにあるんだ」というニュアンスがこの“desacato”から伝わってくる。そして「これが法と言えるの？」と続けていることから、当時の法の正当性と在り方について問うているのが分かる。検閲制度が敷かれて自由な言論が統制されていた当時の状況を考えると、ズズの言動が極めて異例であったことは想像に難くない。息子のために決して沈黙することのなかったズズ・エンジェルを描いた象徴的なシーンだ。

さてここで、ズズの憤りを表す以下のセリフだが、その長さは 5 秒。ところが拙訳は 29 文字で、20 文字の字数制限を大幅に超えている。

「我が子を葬る尊い権利を母親に禁じること それを侮辱というのよ！」
“Desacato é impedir o direito sagrado de uma mãe enterrar seu filho”（原文）

ブラジルでは「enterrar filho（子を葬る）」とは、我が子に先立たれた親の悲しみを表す言い方である。例えば「Eu preferia morrer a enterrar um filho. *（息子を葬るくらいなら、自分が死にたかった）」と言うように使われる。しかし、日本語で「子を葬る」と訳すだけでは、そのニュアンスは伝わりづらい。しかし、ここでは文字通り遺体を葬ることができなかった事実を指しており、それは、真相を闇に葬ろうとする軍事政権に対する非難でもあるから、ここは文字通りに訳したい。そしてこの作品は息子に対する母親の普遍的な愛を描いたものでもあるから、その意味合いも表現したい。ただ読みきれない字幕はストレス以外の何ものでもないから、もっと情報を絞らなくてはならない。さあ、困った。

息子を葬る権利を奪われた
それこそ侮辱よ！

「母親」と「尊い」というワードを省いてしまったが、「我が子」を「息子」とし、「禁じる」を「奪われた」と受動態にすることで妥協するとして、なんとか 20 文字以内におさまった。字幕翻訳はとても奥が深い。 ブラジル映画祭の当時の資料が手元になく、このシーンのセリフがどのように翻訳されたか確認できないのが残念でならない。しかし言葉のプロフェッショナルである字幕翻訳者は字幕一枚一枚に心を砕き、リサーチを重ねて尽力してくださっていたから、最適な訳がこのシーンをさらに感動的なものにしたに違いない。

＊出典：FERREIRA, Lola. “'Eu preferia morrer a enterrar um filho': O luto de 4 mães do Jacarezinho” In UOL, Rio de Janeiro, 09/05/2021. https://noticias.uol.com.br/cotidiano/ultimas-noticias/2021/05/09/eu-preferia-morrer-a-enterrar-um-filho-o-dia-das-maes-no-jacarezinho.htm（最終閲覧日 2022/5/31）

ブラジルに暮らして

ブラジルで得たアイデンティティの確立

コッペデひろみ
（音楽家・イベントコーディネーター / 和伯美苑）

イタリア系ブラジル人の夫と結婚し、ブラジルに移住してから 10 年が経とうとしている。それまでブラジルには一度も行った事がなく、ブラジルに馴染みがある日本人に、どんなところなのか聞くと「好きか嫌いかどちらかにわかれる、どちらでもないと言う人はいない。とにかく行ってみないとわからない。」と言われ、当時は混乱したものだ。実際、人から聞いた話は住んでいる地域、その人の周りの環境などで自分と全く違う事がわかった。

さて、先述の「ブラジルは好きか嫌いかどちらかにわかれる」という言葉だが、「どちらでもない」が存在しないのは意志をハッキリと伝えるブラジルの国民性からきているものなのではないだろうか。

ポルトガル語に Mais ou menos という、まぁまぁという意味の言葉がある。とても便利な言葉だと思うが、ブラジルではあまり聞くことがない。

良い！と思えば、大袈裟なくらい褒めるのがブラジル人。褒められて嫌な人はいないし、自己肯定感が上がるのだから、ブラジル人を嫌いになる人はいないだろう。

私はこの地に降り立った日から今までで、治安の悪さに嫌になる事はあるが、衣食住に不便はなくブラジル生活を満喫中だ。

私が住むサンパウロ州サンパウロ市は、日本でいう東京のようなところで、日本のものなど大抵のものは揃う。

欲しいものはないか、と故郷青森の両親から聞かれる事もあったが、この 10 年間必要を感じなかったので一度も送ってもらったことはない。日本人駐在員ネットワークにはガレージセールチャットがあり、中古だが子供の品などはそこで事足りる。日本の食品も手に入りやすい。日本からの品は多少値段が張るが、それは仕方がないと思っている。しかし、現地で生産されている日本の食材は少しだけ安く購入する事ができる。ブラジルには日本からの移民も多く、都道府県人会連合会や日本文化福祉協会など日本の文化を受け継ぐ団体が多く存在している。私も在伯青森県人会に 2015 年から所属し、今年から副会長に就任した。

遠く離れてわかる故郷の素晴らしさ。私は現在、ブラジル人に日本伝統文化を伝える活動をサンパウロ市で行なっている。私たち日本人にとっては知っていて当たり前のことでも、ブラジル人はもちろん、日本のルーツを持つ日系人も知らなかった！という伝統文化もある。

イベントのコーディネーターをしていると、参加されるブラジル人のお客さまからよく「日本の文化にとても興味があるけれど、どこで教えてもらえば良いのかわからなかった」と言われる。日系社会は広いが、部外者は入れたくないのか、門前払いをされたと聞いたこともあった。はじめて日系社会に踏み入れた時、ここは昭和だろうか、と思ったものだ。昭和生まれの私にとっては居心地は良いが、時代はどんどん変わっていく。古き良き伝統を守りながら、新しい風も入れていきたいと日本の反対側ブラジルの地にて切に思う。

ジャーナリストの旅路

「ジャポネス・ガランチード」初めて知った本当の意味

岡田 玄
（朝日新聞前サンパウロ支局長）

ブラジルを拠点にする日本の報道機関の特派員は出張が多い。ほとんどが、メキシコやカリブ海からチリ、アルゼンチンまでを 1 人で担当するからだ。わたしの場合、新型コロナまでは出張 10 日間、サンパウロに 4 日間のサイクルで、文字どおりラテンアメリカを飛び回っていた。妻は「それなら単身赴任でいいじゃない」と友人たちから言われていたそうだ。ごもっとも。

それがコロナ禍で一転、ブラジルに閉じ込められた。感染の広がるブラジル在住者を入国禁止にした国が多く、簡単に外国出張ができなくなった。おかげで、本当のサンパウロ暮らしが始まった。

買い出しは近所のフェイラ（青空市）。日系人が営むパステウ屋、八百屋、魚屋、バナナ屋など、毎週のようにお世話になった。

卵かけご飯も大丈夫という生卵が入手できる卵屋にも助けられた。ほとんどの客が自分で卵を選んでいた。割れたものや腐ったものを避けたいという心理からだろう。日系 2 世という卵屋のチアは「選ぶ？」と、わたしにも箱を渡した。そこで考えた。長年ここで店を出し、来週もその先もここで卵を売り続ける人が、あえて割れた卵を入れるだろうか。わたしは「そちらで選んでください」と言って、「ジャポネス・ガランチードですから」と付け加えた。今は、そう言ったことが恥ずかしい。

「ジャポネス・ガランチード」は「日本人は信頼できる」という意味だとされる。外相時代の岸田文雄首相もスピーチで使い、外務省や JICA のホームページなどでも紹介されている。わたしも、日系人へのほめ言葉だと思っていた。だが、本当の意味は違ったと知った。

「その言葉を聞くのは、本当に嫌だった」。ボリビアからサンパウロに再移住した 1 世の男性を取材した時のことだ。男性は苦々しい顔で、「ジャポネス・ガランチードは、私たちをさげすむために使われていたんですよ」と説明した。ポルトガル語がうまく話せない日系移民を馬鹿にする言葉だったという。「だから、オネスト（正直者）とかコンフィアーベウ（信頼できる）と言われたときは、本当にそう思われているんだと、うれしかった」

言葉は生き物だ。意味も変わる。「ジャポネス・ガランチード」も新しい意味で広まった。でも、忘れられない心の傷を思い出す人もいる。だからこそ、これからは「ジャポネス・ガランチード」と耳にしたら、その言葉で見下されながらも、信頼を得た日系移民の先人たちを感謝の気持ちとともに思い出したい。日系社会の恩恵にあやかった一人として思う。

連載 文化評論

追悼：映画監督ブレノ・シルヴェイラ(1964-2022)
その早すぎる死を惜しむ

岸和田仁（『ブラジル特報』編集人）

映画撮影中の急死

いくつもの話題映画作品を生み出してきたブレノ・シルヴェイラ監督は、新作『ドナ・ヴィトリア』をペルナンブーコ州ヴィセンシア市（州都レシーフェから約 80km の近郊都市）で撮影中であった。主人公ドナ・ヴィトリアを演じるのは、今や「ブラジル文学アカデミー」会員でもある名女優フェルナンダ・モンテネグロであったが、5 月 14 日、まさにこの野外ロケ現場において、ブレノ監督は急逝した。享年 58。死因は急性心不全。

グローボ TV の定番ニュース番組ジョルナル・ナシオナル（JN）では、10 分以上費やして、彼の業績、主要作品を振り返り、彼の死を悼む映画関係者や音楽関係者が 10 名以上登場していた。主要新聞も週刊誌もこの訃報を大きく取り上げていたことは言うまでもない。

世界ランキングでは 10 位に位置しているブラジル映画市場はまだまだ元気だが、この映画パワーの発展にまちがいなく貢献してきた一人が、ブレノ監督だった。

筆者も彼の映画、とりわけ『ゴンザーガ～父から子へ～』には素直に感動したと告白するしかない。彼のヒット作品はいずれも、観客をストレートに感動させ、涙腺も五感も刺激したといってよい。この機会に彼の主な作品を振り返ってみたい。

『フランシスコの二人の息子』（2005 年公開）

中西部のゴイアス州の田舎に住む農民フランシスコが自分の息子たちを歌手に育てたいという考えを抱いたが、その夢はすんなりとは実現しない。多くの紆余曲折、挫折を経て、ついにゼゼー・ヂ・カマルゴ＆ルシアーノというセルタネージャ音楽の超売れっ子ドゥオに成長していく、という実話を映像化した作品だ。

ブラジルでは 2005 年に一般公開され、累計観客動員数 530 万人という記録的な人気映画となった。1995 年以降のいわゆる「ブラジル映画ルネッサンス」で観客の支持を集めたのは、「セントラル・ステーション（Central do Brasil）」（ワルテル・サーレス監督、1998 年）や「ゴッド・イズ・ブラジリアン（Deus é Brasileiro）」（カカー・ディエゲス監督、2004 年）、「シティー・オブ・ゴッド（Cidade de Deus）」（フェルナンド・メイレレス監督、2004 年）などであったが、これらの観客動員数をはるかに上回るものだ。

これほどまでヒットしたのは、単にゼゼー・ヂ・カマルゴ＆ルシアーノというセルタネージャ音楽の超ビッグネームの苦労＆成功物語を描いた映画だから、だけでは説明できない。出演した俳優たちの演技が絶妙に決まった点も人気の一因だろう。とりわけ子供時代のゼゼーを演じたダブリオ・モレイラ君も同じくルシアーノ役のヴィゴール・リマ君も、歌って踊ってのパーフォーマンスでは抜群のさえを見せたからこそ、普段はセルタネージャ音楽を忌避している中産階層も映画館に通うことになったのだ。

『ゴンザーガ～父から子へ～』（2012 年公開）

作家レジーナ・エシェヴェリアによるベストセラー評伝『ゴンザギーニャとゴンザガゥン』を映画化したものだが、実際に映画が完成するまでに時間を要してしまったのは、遺族間の軋轢があったためだ。ゴンザーガの養子ホーザは、ゴンザギーニャの遺族と会うこともなく、絶縁状態であったが、関係者の奔走もあってゴンザーガの偉大さを遺族全員が理解することで和解が成立した由だ。

オヤジのルイス・ゴンザーガ（1912-1989）。ペルナンブーコ州内陸部のエシューで生まれたゴンザーガは、1946 年「バイアゥン」がヒットしてから、キャリアが開花。カンガセイロ（義賊的野盗）のコスチュームを模したいでたちでアコーディオンを巧みに繰りながら歌った「パライーバ」や「アーザ・ブランカ」は、今日でもノルデスチ各地の街頭で聞くことができるほど大衆に愛されている。MPB の若手にも影響を与えたが、彼の音楽は都市、農村を問わず歌い継がれている。

息子。ルイス・ゴンザーガ・ジュニオール（1945-1991）。通称ゴンザギーニャ。リオで生まれた彼は、父親とは一緒に暮らしたことはなく、ゴンザーガの知人宅で育てられた。大学の音楽祭でその才能を発揮したゴンザギーニャは、軍事政権に抵抗するシンガーソングライターとして活躍。政治風刺的な歌詞は軍政の検閲に何回もひっかかったが、ひるむことなく歌い続けたので、都市中産層を主体に多くのファンを持ったが、交通事故で早逝。享年 45。

このルイス・ゴンザーガ親子は本当に親子なのか。息子の出生届けを出したのは確かにルイス・ゴンザーガだったが、ゴンザギーニャの母親とは結婚しておらず、息子を育てる義務を放棄したことは事実だ。この辺の軋轢も映画では赤裸々に映像化している。

ちなみに、シルヴェイラ監督はブラジリア生まれであるが、両親がノルデスチ出身であり、祖父のブレーノ・ダ・シルヴェイラはレシーフェ出身の元議員（社会党）で、ルイス・ゴンザーガの友人でもあった。少年時代の監督自身が祖父と一緒のゴンザーガを目撃していた、という逸話も映画公開時語られていた。

遅ればせながら、合掌。

最近のブラジル政治経済事情（外務省中南米局提供情報並びに現地メディア報道他より）

● 2022 年総選挙

ルーラ元大統領（PT）は 26 日、ユーチューバー及びジャーナリストとのインタビューにおいて、「ダニエル・シルヴェイラ議員に恩赦を与えたボルソナーロは馬鹿である。凡庸な決定であり、全てはニュース番組で常に目立つために行われた。自分（ルーラ）はその手に乗らないよう、これまで発言を控えてきたが、ボルソナーロの目的が全て遂げられた今となっては無意味となった。ボルソナーロがやっているのは国の統治などではなく、物議を醸したり、フェイクニュースを拡散させたり、民主主義を攻撃するといったことだけである。伯における Covid-19 による死亡者数の少なくとも半数はボルソナーロのせいで死んだ」と批判した。また、「伯は非常に困難な状況にある。伯は、（次期大統領就任時には）自分（ルーラ）が 2003 年に大統領に就任した時よりも更に破綻し、インフレと失業が悪化し、所得水準が下がっているであろう。当時と比べて、伯の国内外における信用はがた落ちとなっている。更に深刻なことに、それまで伯において機能していた多くのことが解体された」と現政権の負の遺産について警鐘を鳴らした。福音派がボルソナーロを支持している件については「福音派の一般信者と（ボルソナーロを支持している）牧師達を一緒にすべきではない。ボルソナーロの言動はクリスチャンのそれではない。ボルソナーロは神を信じていない。彼が神の名を唱える時、彼の眼を見るがいい。あれは選挙目的の芝居に過ぎない」と批判した。（5 月 27 日付コレイオ・ブラジリエンセ）

● Ipespe 社の世論調査

Ipespe 社が 5 月 2 日から 4 日にかけて実施した世論調査によると、大統領候補の支持率は以下の通り。ルーラ元大統領（PT）44%、ボルソナーロ大統領（PL）31%、シロ・ゴメス元国家統合相（PDT）8 %、ドリア前サンパウロ州知事（PSDB）3 %、ジャノネス下院議員（Avante）2 %、テベチ上院議員（MDB）1 %、ダーヴィラ（Novo）1 %、ルーシア（PSTU）0 %、エイマエル（DC）0 %、ビヴァル（União Brasil）0 %、白票 / 無効票 8 %、態度未定 2 %。

決選投票に関しては以下の通り。ルーラ 54%対ボルソナーロ 34%（白票 / 無効票 / 態度未定 12%）。ルーラ 52%対シロ・ゴメス 25%（白票 / 無効票 / 態度未定 23%）。ルーラ 55%対ドリア 19%（白票 / 無効票 / 態度未定 26%）。シロ・ゴメス 45%対ボルソナーロ 38%（白票 / 無効票 / 態度未定 17%）。ボルソナーロ 39%対ドリア 37%（白票 / 無効票 / 態度未定 24%）。（5 月 6 日付コレイオ・ブラジリエンセ電子版）

キャンパス・コラム

アフロ・ブラジル宗教の魅力

小手川佑介
（上智大学 3 年）

ブラジルといわれて大半の人は、「サッカー」「アマゾン」「コーヒー」「陽気な国民」「治安の悪さ」といったものを連想するのではないだろうか。斯く言う私も、サッカーに魅せられてブラジルに興味を抱いた一人である。しかし、本コラムではブラジルを語るうえで代表的なこれらの例とはかけ離れた存在ではあるものの、現在において私が関心を抱くアフロ・ブラジル文化のなかでも特に興味があるアフロ・ブラジル宗教について述べていく。

そもそも、アフロ・ブラジル文化とはアフリカの影響がみられるブラジル文化のことを指すが、伝統的なアフリカ文化を継続的に実践するのではなくブラジルにおける何らかの変転がみられる文化でなければならない。このアフロ・ブラジル文化のなかでも、カポエイラやカーニバルがより有名な例として挙げられるだろう。私もこれらの有名なアフロ・ブラジル文化に決して興味がないわけではないが、アフロ・ブラジル文化を勉強するうえで最も惹かれたのはカンドンブレやウンバンダといったアフロ・ブラジル宗教であった。

私がアフロ・ブラジル宗教に惹かれた主な要因の一つとして挙げられるのは、アフロ・ブラジル宗教では至高神オロルンと人間の橋渡し役となるオリシャと呼ばれる神々への崇拝に憑依儀礼が用いられることである。信者はそれぞれのオリシャを持っており、一つ一つのオリシャによって憑依パターンが変化することが特徴である。憑依の映像を見たときに、私はその力強さや表現力の豊かさに終始圧倒され、気づけばアフロ・ブラジル宗教の虜になっていたのと同時に、私の宗教に対する価値観が変化した瞬間でもあった。

もう一つの要因としては、アフロ・ブラジル宗教の伝統的なカンドンブレとは対照的なウンバンダにおいて著しい多様性が存在するところが挙げられる。ブラジルは人種民主主義の国であると呼ばれるように著しい多人種・多文化共生がみられる国であり、今日ではブラジル国民のアイデンティティにもなっている多様性はウンバンダにおいても散見され、伝統を重んじるカンドンブレとは違い、カトリシズムやカルデシズムといった他の宗教要素も取り入れつつ、それぞれの集団が縛られることなく独自の発展を遂げている。どの人種や文化も拒まずに取り入れようとする姿勢は、グローバルな世の中を生きるうえで非常に重要な要素であり、私もこの姿勢を常に見習うことを心掛けている。

アフロ・ブラジル宗教は決してメジャーな分野ではないが、ブラジルを語る上で欠かせないといっても過言ではない。これからアフロ・ブラジル宗教に興味を持つ人が増えていくことを願うばかりである。

新刊書紹介

◆◆◆◆◆◆ 新刊書紹介 ◆◆◆◆◆◆

『世界の終わりを先延ばしするためのアイディア』（アイウトン・クレナッキ著、国安真奈訳）

ミナス州生まれの、ブラジル先住民の環境保護活動家クレナッキは、2019年、ブラジル作家連盟から「今年を代表する知識人」に選出された。この、現代ブラジルの知性を代表する思想家の論稿集が初めて邦訳された。「先住民によるブラジル発見史」の序章と読める本書において、「私たちは本当に、ひとつの人類なのか？」と問いかける。彼の友人、人類学者Ｅ・Ｖ・デ・カストロによるあとがきも訳者あとがきも、読者への読書案内として秀悦。

（中央公論新社　2022年4月　86頁　1,600円＋税）

『大使閣下』（エリコ・ヴェリッシモ著、澤木忠男訳）

今や古典となった歴史大河小説『時と風』を書き上げた文豪ヴェリッシモが次に取り組んだのが、キューバやドミニカで展開された独裁制と革命をモデルとしたエンタメ要素たっぷりのラテンアメリカ政治絵巻小説（1965年刊）だった。主人公はカリブの架空国サクラメントの在米大使。連日繰り広げられる政治的駆け引きと色狂いを巡るストーリー展開は読者サービス精神たっぷり。最後は、革命軍に逮捕された主人公が公開処刑されるシーンだ。

（文芸社　2022年2月　736頁　2,100円＋税）

『セルタンとリトラル』（三砂ちづる著）

公衆衛生・母子保健を専門とする疫学教授は、これまで『オニババ化する女たち』などの話題作を発表しただけでなく、古典的識字教育論といえるパウロ・フレイレ『被抑圧者の教育学』のポルトガル語版からの新訳も刊行してきた。学際的活躍を続けている彼女の”心の故郷”といえるのが、ノルデスチ（セアラ州）での10年間に及ぶ「出生と出産の人間化」の実践経験であった。帰国して20年以上が経過して紡ぎ出した回想的エッセイが本書だ。

（弦書房　2022年4月　296頁　2,000円＋税）

『「大東亜」の読書編成』（和田敦彦著）

本書の第八章「戦時期の日系人移民地の読書空間」は、緻密な現地調査を踏まえ、1930年代のサンパウロ日系社会における日本語出版・読書状況を論じている。特に、安藤潔（アンドウゼンパチ）が編集責任者を務めた雑誌『文化』のバックナンバー全てを読み込んだうえで、同誌が、単に「国粋主義に反抗してブラジル永住と同化を主張」しただけではなく、日本浪漫派の主張も掲載していた事実を明らかにした。この冷徹な分析は極めて貴重である。

（ひつじ書房　2022年2月　352頁　2,900円＋税）

『インディオの聖像』（立花隆著）

「知の巨人」が映画『ミッション』に衝撃を受け、この映画で描かれた、イエズス会が18世紀南米各地で展開したインディオ伝道教化村の背景を調べることに。当時46歳の立花隆は写真家佐々木芳郎と共にパラグアイ・ブラジル・アルゼンチンにまたがる伝道村遺跡を訪ね、その宗教美術のレベルの高さに驚愕し、キリスト教徒たちによる先住民虐殺の歴史をフォローしていく。雑誌発表原稿に加え、未刊行原稿が今回30年ぶりに本になった。

（文藝春秋　2022年5月　166頁　2,700円＋税）

!!「ブラジルあれこれ」!!

チラデンテス－「顔のない」英雄

▲チラデンテス肖像（Décio Villares 作）　BBC News Brasilサイトより

チラデンテスといえば、18世紀の終わり（1792年）、ポルトガル王政に対する蜂起計画であった「ミナスの陰謀（Inconfidência Mineira）」の首謀者の中でただ一人処刑された、歴史書に必ず登場するブラジル独立運動の英雄とされる人物だ。ここでは、前号でも紹介したイギリスBBCの『BBC NEWS BRASIL』というサイトに掲載された関連記事（『Tiradentes: como um herói 'sem rosto' acabou ganhando uma representação quase religiosa（チラデンテス：「顔のない」英雄は、どのようにして、ほとんど宗教的といえる肖像を手に入れたか）』）を取り上げて、チラデンテスにまつわるエピソードを紹介する。

記事によれば、19世紀末（1889年）、新しく発足した共和国政府にとっては、それまでの帝政にまつわる様々なしがらみから国民を開放し、共和思想の下、国民の心をひとつにする「英雄」が必要だったことから、その死後一世紀も経っていたにもかかわらず、チラデンテスが「選ばれた」。「ミナスの陰謀」が発覚したのは、親しい仲間の一人の裏切りであったことや処刑（絞首刑）後その首がVila Rica（当時ミナス行政区の首府が置かれていた。現在のOuro Preto）の中央広場で晒され、その体も四つ裂きにされ、リオとミナスを結ぶ街道に晒されたことがキリストの受難になぞらえた「殉教者」としてのイメージを作るのに繋がった。

「ミナスの陰謀」の首謀者12名の中でも末席に名を連ねるに過ぎなかったチラデンテスには、肖像も残されていなかったことから、画家たちが、明るい色の目、長く伸ばした髪や髭などキリストに似せた肖像画（最初の絵は、1890年Décio Villaresの製作によるもの：画像参照）を描くようになった。（筆者注：インターネット上にはキリストのような風貌のチラデンテス像が多数掲載されている。）学者は、チラデンテスは軍人（騎馬隊少尉）だったので、髪や髭を長く伸ばすことはあり得ないと指摘する。また、当時のポルトガル王室関係者の記録によれば、チラデンテスは、やせていて背が高く、疑い深そうな不快な容貌だった。いずれにしても、チラデンテスは、ミナスという一地方を舞台に活動し、王政に対し反逆を試みた「罪人」というステータスから一転、全国区の「殉教者・英雄」に生まれ変わった。共和国政府は、チラデンテスの処刑日である4月21日を休日にしてチラデンテスの神格化に努めた。

興味深いことに「チラデンテスのイメージ」に頼ったのは、19世紀末に発足した共和国政府だけではなかった、1964年の軍事クーデターで政権を掌握した軍部は、あらためて1965年の法律をもって国民の祝日「チラデンテスの日」を定めた。これは、軍政反対派が、チラデンテスを王政に対する抵抗のシンボルとして利用しようとしたことに対抗したことが背景にあると考えられている。（MK）

ブラジル赴任の前に
ビジネスで使えるポルトガル語を

ブラジルでビジネスや生活をする上で
欠かせないのがポルトガル語です。
BrAsia（ブレイジア）では、
赴任前と赴任後の語学研修を提供します。
「講師任せにはしない」
現地に精通したスタッフが進捗を管理します。

BrAsia（ブレイジア）　運営：株式会社 漢和塾　〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-12 楠本第17ビル5階 TEL03-6263-0716

お問い合わせは　E-mail:brasia@kanwajuku.com　HP:http://brasia-j.com/

30年の信頼と実績

KOWA

株式会社 晃和

人と仕事を結ぶ
全国ネットワーク完備。

www.kowa-corp.com/company

TEL: 0270-21-8155
〒372-0054
群馬県伊勢崎市柳原町15番地

TEL: 045-754-8152
〒235-0016
神奈川県横浜市磯子区磯子3-3-21
江戸徳5F

一人一人を大切にする会社

企業のアウトソーシングに
よるベストパートナー

優れた人材を
いち早く提供することで
企業の生産体制を
バックアップします。

日本ブラジル中央協会

法人・個人・学生

新規会員募集中

会員数　法人会員 105社　個人会員 約400名（2022年6月現在）

当協会の活動目的「日本・ブラジル両国間の相互理解、友好関係の促進に寄与する」にご賛同・ご支援頂ける方に、会員となることをご検討いただければ幸いです。

会員特典

1. 協会会報「ブラジル特報」の無料配布。
   隔月発行、年6回配布。
2. 会員価格にて、講演会等のイベント、ポルトガル語講座に参加できます。（会員限定イベントへも参加いただけます）
3. 会員交流懇親会へ参加いただけます。
4. 会員宛にメールでお伝えする、様々なブラジル情報をご覧頂けます。
5. ホームページにて、会員限定情報をご覧頂けます。

年会費

※入会金は不要です

法人会員 1口（2口以上） 20,000円 ／ 個人会員 1口（1口以上） 10,000円

お申し込み

《日本ブラジル中央協会公式HP》
https://www.nipo-brasil.org　日本ブラジル中央協会　検索

「ブラジル特報」は一部有名書店の店頭でも入手できます。

秋期ポルトガル語講座のご案内

受講生募集開始!

当協会では、“楽しく学ぼう!学んで話せるポルトガル語!”をモットーに実用ポルトガル語講座を開講しております。

秋期ポルトガル語講座は、
2022年9月6日～開講。

※詳細は、HPを参照下さい。
https://nipo-brasil.org/portugal/

コースのご案内

- ◆全くの初心者コース【火曜 16:30～】
- ◆初心者コース【火曜 19:00～】
- ◆初級Ⅰコース【金曜 19:00～】
- ◆初級Ⅱコース【水曜 19:00～】
- ◆中級コース【月曜 19:00～】
- ◆上級コース【木曜 16:30～】
- ◆上級コース【木曜 19:00～】
- ◆上級会話コース【隔週土曜 11:00～】

イベントのご案内

八木 繁和 氏（初代YKK農場長）ランチョン・ミーティング

日　時：2022年7月21日（木）　12:00～14:00
約1時間の講演の後、ブッフェ方式または着席でのランチとなります。
場　所：シーボニア・メンズクラブ
参加費：会員 2,700円、非会員 3,500円
定　員：30名

ファスナー最大手のYKKは、1972年にブラジル進出し、サンパウロ州ソロカバ市に竣工した工場を生産拠点として今日まで手堅く事業展開しておりますが、もう一つの事業、農牧事業についても現地に根付いた牧畜並びにコーヒー事業を展開してきていることは、広く知られています。YKK農場の初代農場長として1985年から8年間、農場立ち上げから複合有機農業体制の確立まで活躍された八木氏に、農牧事業についての苦労話、その他をお話し頂く機会を設けました。

ブラジル駐在夫人ガイダンスセミナー

日時：2022年9月17日（土）9：30～12：00
開催方式：ZOOMオンライン
講師：伊藤 智晴（元丸紅駐在員夫人）
山口 セシリア（在サンパウロ、長年サンパウロで日本企業に勤務）他
参加費：会員所属企業の駐在員の配偶者 2,000円　非会員 3,000円
（夫婦で参加の場合は、＋1,000円）

H&Aコンサルティング
H&A Consulting

ブラジルでのビジネスをご支援いたします！

医療分野に強い
リサーチ・コンサルティング
通訳・翻訳

語学研修
確かな実績
ポルトガル語教育

赴任者サポートに強い
各種セミナーなど

https://www.h-a-consulting.com
詳しくはこちらをご覧ください

atsuko_hoshi@h-a-consulting.com

世界の未来を、ブラジルとつくる。

［Business innovation-1］

鉄道と港湾を一体化させ、物流を効率化。

鉄道網と港湾ターミナルの複合一貫サービスを提供するVLI社に出資参画。
たとえばサントス北西のティプラム港で、取扱貨物を次々と拡大。

［Business innovation-2］

貨車リースで、全土に広がる陸上輸送モデルを確立。

MRCLA社を通じてリース事業を展開。貨車6,000両以上、機関車20両以上で国じゅうを
縦横につなぎ、穀物・肥料・鉄鋼製品・燃料などを運搬。物流の安定化に貢献。

［Business innovation-3］

現場のニーズに細やかに応える農薬事業で、農業の発展を。

オウロフィーノ社に出資参画。大規模な農地が多いブラジルで、
気候条件に適した農薬製剤を開発。作物の順調な生育を農薬で支え、
増産や品質向上に貢献。

世界の未来を、世界とつくる。三井物産

MITSUI & CO.